

## 施設基準 一般病棟入院基本料 7:1 を取得いたしました。

去る 2011 年 6 月 1 日に、当院は、施設基準である一般病棟入院基本料 7:1 を取得いたしました。

これは、急性期医療に対応した病院で平均して入院患者 7 人に対し看護職員 1 人が実際に勤務していることを意味します。当院では時間ごと病棟ごとで下記のような配置になっています。

### 3階から5階までの病棟

日勤	8:30~17:00	
看護要員 1 人について患者様		3 名以内を担当
看護補助者 1 人について患者様		14 名以内を担当
夜勤	16:30~9:00	
看護要員 1 人について患者様		13 名以内を担当
看護補助者 1 人について患者様		40 名以内を担当

### 2階の病棟 (ICU・救急病室)

日勤	8:30~17:00	
看護要員 1 人について患者様		2 名を担当
夜勤	16:30~9:00	
看護要員 1 人について患者様		2 名を担当

(\*本コンテンツは、株式会社朝日新聞社に無断で転載することを禁止いたします。)

## 薬剤師の病棟における活動が朝日新聞に掲載されました。

朝日新聞は、「チーム医療は今」という特集で当院の病棟薬剤師の活躍取材し、2011年6月29日夕刊で掲載されました。現在病棟では多くの患者さんが種類のお薬を服用されています。これらのお薬を適切に服用してもらうために薬剤師は医師・看護師と共にチーム医療を実践しています。

今回掲載された記事で病棟薬剤師の業務がご理解いただけると思います。これからも当院は、色々な視点から安心して患者様にご利用いただけるような活動を通じて日々努力を重ねてゆきたいと思っています。

医療事故につながるかわからないミスの3割は、薬に絡むもの。薬剤師が病棟に長くいることで、事故を減らすことが出来る。

329ベッドをもつ東住吉森本病院(大阪市)。6月上旬、間質性肺炎が悪化した男性(68)が入院した。医師は、免疫抑制剤やステロイドを処方。病棟担当の薬剤師、飯森文さん(26)は、ベッド脇で男性と面談し、それまでのんでいた薬を聞き取った。

高めの尿酸値を抑えるため、のんでいた痛風の薬は、新たに医師が出した免疫抑制剤と一緒に飲むと、副作用が出やすくなる。気がい

## 事故防止薬剤師病棟へ

「チーム医療は今」

た飯森さんは先輩の佐古守人さん(29)に「注意が必要」と報告。佐古さんが医師に伝え、医師は尿酸値を測った。ほぼ正常値だったので、痛風の薬はやめた。

病棟に常駐する薬剤師は患者が入院すると、薬の種類や数、アレルギーや副作用歴などを聞きリストに記入し、医師や看護師らスタッフも活用する。

「下痢しないようフロロ」はのどで、倍に増やして量を倍にすると、女性の便秘は治った。

平均在院日数約14日、重症の患者が多く入院する救急病棟。薬の内容は、数日単位で変わる。

1993年、外来患者の薬を病棟外の薬局が出すやり方になり、時間がかかると薬剤師が病棟に顔を出すようになった。当時から勤める渡辺幸子医療安全管理部長(48)は、処方入力ミスや医師の口頭指示が正しく伝わっていない場面に出くわし、驚いた。

「薬の管理はすべて薬剤師がすべきだ。病棟に薬剤師を」という渡辺さんの訴えが実現し、薬剤師の病

棟配置がスタート。05年から2つの病棟へ増えた。今、薬歴法に必要となる人に対して17人の薬剤師が働く。

瓦林孝彦院長(56)は言う。薬のプロが病棟にいることで、医師や看護師の負担が減り、事故のリスクは減る。

薬剤師の病棟勤務時間が長いほど、薬に絡むインシデント・事故につながる可能性は低い。旭川医大病院薬剤師部の松原和夫部長(60)らが、全国の大学病院の内科系病棟を調べた。薬剤師が1日7時間以上いる病棟と2時間未満ではインシデント数の平均値は約3倍の開きがあった。

患者の入退院時、地域の薬局や開業医らと病院との連携を注目は集まる。岐阜県下呂市では07年、病状の経過や薬を処方する時の注意点を患者の手帳に書き始めた。患者が薬局や医療機関に持ち帰って使う。下呂市薬剤師会は「不適切な処方」は確率に減った」とみる。(辻外記子)



全ての患者のカルテを毎日チェックする病棟担当の薬剤師(左)。医師や看護師から薬について質問も受ける=大阪市

## 第3回 東住吉がん診療連携懇話会

2011年6月18日、当院6階講堂にて「がん診療連携懇話会」が行われました。本会は昨年2月に「第1回 東住吉消化器がん診療連携懇話会」として始まりましたが、本年4月に「大阪府がん診療拠点病院」に指定されたのを契機とし、広く「がん診療」全般にわたる地域連携を推進すべく、今回より「がん診療連携懇話会」と名称変更して開催されました。まず、一般演題①として、田中副院長より、「大阪府がん診療拠点病院としての当院の取り組み」というタイトルで、国や府は「拠点病院」という制度下にどのようにして「がん対策」を推進しようとしているのか、それに対して当院はどう取り組むのかという説明がありました。また、当院が得意とする腹腔鏡下大腸がん手術や脾臓十二指腸切除術なども紹介されました。続いて一般演題②として、当院緩和ケア認定看護師の江口さんより、「当院における緩和ケアチームの取り組み」というタイトルで、1年前からボランティアチームとして始動し本年4月に正式な院内チームとなった「緩和ケアチーム」について紹介され、チームとして関わった印象的な事例の紹介も行われました。後半の特別講演では、ベルランド総合病院外科・乳腺外科副部長の山崎圭一先生に、「がん診療拠点病院としてのベルランド総合病院緩和ケアチームの取り組み」と題して、がん診療における早い段階からの緩和ケア導入の必要性、自院におけるこれまでの積極的な取り組みについて、とても判りやすく講演いただきました。当日は、あいにくの雨天にもかかわらず、地域の先生方、訪問看護関係者、薬剤師など多くの皆様にご参加いただき、熱のこもった質疑応答やディスカッションが行われました。この分野における地域連携の必要性が強く認識される会となりました。



## 病診連携勉強会 ～脳卒中地域連携ネットワーク～

去る2011年6月18日、当院と地域の開業医さんとの脳卒中に関する医療連携を強化する目的で病診連携勉強会がスイスホテル南海大阪で開催されました。

当院からは脳神経外科医長 磯野先生より「脳卒中治療と高血圧～身近な大問題～」というテーマで講演が行われました。脳卒中治療における血圧管理のノウハウや、高血圧性脳症の診断、また脳卒中予防を”食生活”の視点から解説し、管理栄養士とのチーム医療的なアプローチにも触れました。各テーマについては、論文などのデータ解説もあり非常に密度の濃い勉強会でした。



## 第4回 舞洲 Intervention Basic 講習会

去る2011年5月13日、舞洲ロッジにて「舞洲 Intervention Basic 講習会」を実施いたしました。これは、若手循環器医師の育成を目的とした講習会で、院内外から講師を募り研修医を対象にしています。当院からは、広瀬先生より「冠動脈造影とインターベンションの基礎」について講義があり、エコー、CTなどImaging modalityについての解説や、バルーン、ステント、ロータブレードなどPCIデバイスの選択とリスクなどについて解説。瓦林院長より、人体血管模型シミュレーターを使ったPCI手技の実習が行われ、実際のBalloon、STENT、GuideCathを使用して解説。また坂上祐司先生より「心臓以外のインターベンション」について閉塞性動脈硬化症(ASO)の基礎的な話から診断、治療について解説、早期発見・早期治療が重要であることを強調しました。また院外からは、ベルランド総合病院 片岡亨先生が、血管内プラークの豊富な動画を提供され「冠動脈 imaging と physiology を冠動脈インターベンションに活かそう」を講義。また大阪市立大学医学部附属病院 島田健永先生より「循環器で世界に発信したデータ、これからするデータ」を講義され、自由な発想で、「安価でしかも自宅でも出来る」をコンセプトにユニークな研究発表事例を述べられました。そのユニークな発想は研修医のみならず、ベテランの医師にも非常に好評でありました。



## 南大阪循環器セミナー

去る2011年6月16日、南大阪循環器セミナーが実施されました。不整脈治療と脳卒中治療の話題で、循環器疾患を扱う上で要となる話を中心に講演会が開催されました。当院からは、金森先生より「不整脈治療の考え方～Common Diseaseとしての心房細動治療を中心に～」というテーマで講義が行われ、不整脈を構成する除脈、期外性収縮、頻脈などについて各々薬物療法やカテーテルアブレーションによる治療をケースごとに解説しました。また、期外性収縮における心房細動については疫学的な視点からこれをCommon Diseaseとして位置づけ、その治療戦略を合併・併存症の話題も交えながら講義しました。続いて国立循環器病研究センター 脳血管内科部長 豊田先生からは「脳卒中再発予防のための新しい抗凝固療法～血圧管理の重要性を含めて～」という話題で講義いただきました。脳卒中患者に対する抗凝固療法の話では、最近、最もホットな薬剤ダビガトランについて解説。同薬剤の構造を説明した上で、従来のワーファリンと比較しながら詳細にその導入方法について解説されました。



# TOPICS

当院は、  
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構  
心臓血管外科専門医認定修練施設に認定  
されました。



## 第14回 知って得するよもやま塾

去る2011年5月28日に当院の6F講堂にて恒例の”知って得するよもやま塾”を開催いたしました。

今回は、当院心臓血管外科 南村部長による「下肢の血管閉塞とバイパス手術」、看護部ヘルスケアチーム西口淑子看護師による「動脈硬化の予防について」、有富時也理学療法士による「気軽なウォーキング」という演題で講義が行われ多数の地域の皆さんに情報提供をさせていただきました。



## 職員・家族 日帰りバス旅行

去る2011年7月10日 職員・家族を対象に日帰りバス旅行を実施いたしました。

前回の金剛山企画に続き、第2弾！舞鶴方面は浜坂へ行き、但馬海岸の遊覧船クルーズや海鮮料理を堪能いたしました。総勢50名以上の多くの参加者がありまして、にぎやかなイベントとなりました。クルージングでの海のきれいさは半端でないです。小さなお子さんにとっては、夏の楽しい思い出となったことでしょう！！



## 編集後記 広報室 M

先日、こっそりと奈良県は天川村へ行って来たのです。ここには芸能の神様・弁財天さんが祭られていたり、温泉があったり、有名なパワースポットでもあります！

天王寺は阿倍野から下市口まで近鉄電車で約1時間、そこからバスで約1時間と2時間コースの距離なのですが、逆にたった2時間でこの美しい大自然が満喫できるのです。

今のところ、私には、まだ新しい能力の兆候が見られませんが、パワースポット訪問のご利益は、きっとこの机上の仕事が全て勝手に終わっているという現象を引き起こすでしょう・・・と毎日、根気強く机上を観察しております(笑)

